

24 膵・胆管合流異常症に合併した胆嚢癌 8 例の検討

大橋 拓・廣瀬 雄己・新田 正和
滝沢 一泰・高野 可赴・坂田 純
小林 隆・皆川 昌広・若井 俊文

新潟大学大学院 消化器・一般外科学分野

【背景】膵・胆管合流異常（合流異常）は胆道癌の高リスク因子であり，hyperplasia - carcinoma sequence を介した発癌経路が知られている。当科で経験した合流異常合併の胆嚢癌について，その特徴について考察を加え，報告する。

【方法】胆嚢癌 179 例中，合流異常を合併した 8 例の臨床病理学的特徴をまとめ，合流異常非合併胆嚢癌 171 例と比較した。

【結果】8 例の年齢中央値は 57 歳であり，男女比は 2 : 6，胆石保有症例はなかった。胆管拡張（総胆管最大径 10mm 以上）を 4 例に認め，いずれもが戸谷分類 I 型であった。組織型（優性像）は，tub1 6 例，tub3 1 例，sol 1 例であり，8 例中 1 例に肝細胞癌の合併を認めた。合流異常非合併例の年齢中央値は 68 歳，男女比は 69 : 102，胆石保有例は 75 例だった。合流異常合併例は，非合併例に比して有意に若年であり（ $p = 0.004$ ），胆石の合併が少なかった（ $p = 0.014$ ）。

【結論】合流異常合併の胆嚢癌は，合流異常非合併の胆嚢癌に比して若年発症であり，胆石を合併しにくい。

25 食道胃静脈瘤に対する用手補助腹腔鏡補助下 Hassab 手術の短期成績

小林 隆・大矢 洋*・堀田真之介
島田 哲也・仲野 哲矢・滝沢 一泰
石川 博補・山本 潤・皆川 昌広
坂田 純・高野 可赴・新田 正和
小杉 伸一・野上 仁・若井 俊文

新潟大学大学院 消化器・一般外科学分野
新潟医療センター 外科*

【目的】食道胃静脈瘤に対する用手補助下腹腔鏡補助下（HALS）Hassab 手術の短期成績を検討。

【方法】2009 年 5 月より 2013 年 3 月までの HALS Hassab 手術 7 例を対象とし，術前後での静脈瘤を内視鏡で評価。内訳は男性 4 例，女性 3 例。年齢中央値 61（35 - 71）歳。背景疾患は原発性硬化性胆管炎で生体肝移植後 1 例，原発性胆汁性肝硬変 1 例，C 型肝炎肝硬変 2 例，NASH 1 例，門脈肺静脈シャント 1 例，アルコール性肝硬変 1 例。Child - Pugh : A : 3 例，B : 4 例，score 中央値 : 7（最小値 6 - 最大値 9），手術時間 : 455（310 - 671）min，出血量 : 695（15 - 2,395）ml，術後在院期間 : 21（13 - 81），術後フォローアップ期間 17 か月（1 - 39）で全例生存中。

結果 7 例中 6 例で術後上部消化管内視鏡検査実施。症例 1 の術前所見 : EVF2RC2，GVF2RC0，術後所見 : EVF0RC0，GV 消失。症例 2 術前 : EVF1RC1，GVF2RC0，術後 : EVF1RC2，GV 消失 PHG 改善，症例 3 術前 : EVF1RC0，GVF2RC0，術後 : EV，GV とともに消失。症例 4 術前 : EVF2RC1，GVF2RC0，術後 : EVF1RC0，GVF1RC0。症例 5 術前 : EVF3RC1，GVF1R0，術後 : EVF1RC0，GVF1RC0。症例 6 術前 : EVF2RC0，GVF1RC0，PHG with bleeding。術後 : 改善（他院実施）と 5 例で静脈瘤改善。1 例で静脈瘤消失。

【結語】食道胃静脈瘤に対する HALS Hassab 手術の短期成績はおおむね良好。長期生成期は不明であり慎重なフォローアップが必要。